

全国知事会会長メッセージ



さる9月3日に全国知事会会長に就任した徳島県知事の飯泉嘉門です。

人口100万人未満の都道府県及び四国からは初選出で、30名もの知事から推薦をいただき、大変栄誉であると同時に、重責に身が引き締まる思いです。

今、我が国は「人口減少」と「災害列島」二つの国難に直面するとともに、第4次産業革命の急激な進展や経済のグローバル化、地球規模での脱炭素社会の加速など、従来の常識が通用しない「未知の世界」が広がっており、全国知事会には、こうした羅針盤なき世の「羅針盤」を地方六団体と一致結束し、築き上げていくことが求められています。

そこで、全国知事会において「3つの重点指針」に取り組んで参ります。

1点目は、「大都市部と地方部の連携・融和」です。

全国知事会はともすれば、地方部の声を取りまとめる場、大都市部との対立の場と捉えられてしまいます。しかし、昨年6月の大阪北部地震でのブロック塀事故を受け、立ち上げた「国産木材活用PT」においては、最大需要地の東京都知事がリーダー、主要供給地の高知県知事が副リーダーとなり、「ブロック塀に変わる国産木材の塀」を推進する新たな対策が取りまとめられました。こうした大都市部と地方部がそれぞれの特性を活かし、スクラムを組んだ新しい処方箋を47都道府県が一致結束して打ち出して参ります。

2点目は、「政策形成・政策提言機能の強化」です。

地方部は、課題先進地域として、少子高齢化をはじめ多くの課題が真っ先に訪れる一方、それを解決する「課題解決先進地域」でもあります。全国知事会において、各地域の様々な先進的な施策を束ね、「知恵は地方にあり」の名の下に、「政策形成」や「政策提言」機能を強化し、国に対してその処方箋をしっかりと打ち出して参ります。

3点目は、全国知事会としての「プレゼンス(存在感)の向上」です。

先の富山県での全国知事会議では、その前日に各知事がパネラーとなり、IoT・ビッグデータ・AI・ロボットなど第4次産業革命の先端技術活用をテーマに議論することで、翌日のこれら Society5.0時代の地方創生を盛り込んだ「富山宣言」に多くの注目を集めました。このような今日的課題について、国民の皆様「気づき」を持って頂けるよう、広報戦略に磨きをかけ、全国知事会としてのプレゼンスを高めて参ります。

全国知事会会長として、「現場主義・国民目線」を徹底し、これまで以上に国と責任を共有する、より一層「行動する知事会」として、国と共に国難を打破し、日本創生を実装して参りますので、一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

全国知事会会長 飯泉嘉門